

企画提案試験 講義編

第1節 企画提案試験の概要

…企画力、建設的な思考力及び説明力などを判定するための試験（配点：5／28）

毎年、教養区分第1次試験合格発表日に人事院ホームページにて、参考文献や資料等が提示されるので、事前にそれらを読み、内容を十分理解した上で試験に臨む必要がある。

- (参考) ·2012年：「ものづくり白書」(全文)
·2013年：「H25年版男女共同参画白書」(全文)
·2014年：「平成26年度版 子ども・若者白書」(全文)
·2015年：「平成27年度版 高齢社会白書」(全文)
·2016年：①「平成28年度版 観光白書」(全文)
 ②「Global Code of Ethics for Tourism」World Tourism Organization (UNWTO)
·2017年：①「平成28年度版 厚生労働白書」(第1部)
 ②「平成28年度版 労働経済の分析」(全文)
 ③「Replacement Migration」(国連事務局経済社会局人口部 DESA)
·2018年：「平成29年度 経済財政白書」(第1章)
·2019年：「平成29年度 文部科学白書」(第1部)
·2020年：「平成30年度版 厚生労働白書」
 (第1部：障害や病気などと向き合い、全ての人が活躍できる社会に)
·2021年：①「国土強靭化進めよう！」(令和3年3月版)
 ②「防災・減災、国土強靭化のための5か年加速化対策（概要）」
 ③「防災・減災、国土強靭化のための5か年加速化対策の対策例」
·2022年：①『令和4年版 子供・若者白書』第3章第2節1「若年無業者、ひきこもり、不登校の子供・若者の支援等」
 ②『令和元年版 子供・若者白書』特集2「長期化するひきこもりの実態」
 ③『令和3年版 高齢社会白書』第1章第1節3「健康意識及び友人・知人との交流について」

★ I部：政策概要説明紙（プレゼンテーションシート）

従来の「小論文」に代わり、2022年から導入されたもので、**1時間30分の時間内でA4両面1枚に、箇条書きや図、表を用いるなど自由な形式で政策の内容を分かりやすくまとめる**。解答時間は30分短縮されたものの、これまでと同様、試験当日に課題と資料を与えた上で、政策を提案させる形式は踏襲されている。

★ II部：プレゼンテーション及び質疑応答

I部で書いたプレゼンテーションシートの内容について試験官(2名)に説明、その後質疑応答を受ける。（発表時間5分間、質疑応答：概ね20分間）
課題紙及び参考資料は、I部終了時に回収するが、II部の発表に当たり、準備時間（10分間）を考慮して、政策概要説明紙のコピーとともに手渡される。なお、II部終了時に、これらは回収される。

(当日のイメージ)

①午前中、政策課題用紙作成（1.5 時間）

②昼食休憩

- この試験は、昼食時間の後に 1 列づつ面接室に呼ばれてプレゼン＆質疑応答を行う形式をとっているが、1 列あたり準備時間 10 分、個別発表・質疑応答合わせて 25 分の合計 35 分程度を要する。しかもその間、控室では外出は当然のことだが、読書・携帯・雑談さえも禁止であるため（水分補給も許可がいる）、会場によっては、後列になった受験者は最悪 3 時間以上何もせずただひたすら待機する羽目になる（待機時における不自由さという点では、待機時間がやたら長い官庁訪問よりもひどい…）。

③別室で資料が返され、10 分間の準備時間（みんなメモしたりしていた）

④面接官 2 人相手に、プレゼン＆質疑応答開始

プレゼン（5 分）→質疑応答（20 分）

説明は 5 分以内厳守であるものの、大きいタイマーが置いてあるため、事前に何度も練習をしていれば焦ることもない。

● 評価について

- 素点（12 点満点）に対して、基準点（4 点）未満は「足切り」となる。また、平均点は 6 点前後。
- 素点が小さいので標準偏差も当然小さくなるものの、素点が同程度の春試験向け政策論文（素点 10 点）が 1.3 台で推移しているのに対し、企画提案試験は 2 点台になることも多く、準備対策の有無が点数の差につながりやすい。